

## 開催報告

**BIOMASS OPEN INNOVATION FORUM** は、タイ国立科学技術研究所(Thailand Institute of Scientific and Technological Research, TISTR)主催、武田財団と日本工学アカデミー共催により、11月18日、バンコクの四つ星ホテルである Centara Grand Hotel at Central Plaza Lad Rao の宴会場で開催された。タイ科学技術省(MOST)、エネルギー省(MOE)、国家科学技術開発庁 (NSTDA)、日本の国際協力機構が後援した。初めに TISTR の Yongvut 長官が歓迎挨拶を行い、次にタイの Pongsak Ruktapongpisal エネルギー大臣がタイのエネルギー政策とバイオマス燃料について基調講演を行った。

BIOMASS OPEN INNOVATION FORUM には約日タイ双方から 150 名程度の参加があった。武田財団からは大戸以外に研究会の委員として松見芳男氏が参加した。日本側からはパネルに参加した 7 名の他に、木村等氏(住友商事)、松山広樹氏(日揮)、岡野嘉市氏(浜田化学)が参加した。タイ側は、ばらばらに行われているタイのバイオマス研究の現状と課題を共有し研究の重複を避けるためタイのバイオマス・コンソーシアムを結成し、そのセンターとして BORC を設立することを計画している。キックオフ・ミーティングとして特に声明等は提出しなかった。タイ側は、数多くある公的研究機関のバイオマス研究開発の情報共有とマネジメントのセンターとして BORC を是非とも設置したいと考えているようである。武田財団から、今回の BOIF(BIOMASS OPEN INNOVATION FORUM)が成功したので、今後は、BOIF を BORC の annual meeting として開催し、各国に参加を呼び掛けたらどうかという提案を行った。枠組みの議論も大事であるが、BORC が域内のセンターとしてきちんと機能するというを示していくことが BORC を各国に認めさせる近道ではないかと考えている。

### 基調講演

タイには、2012年から2020年にかけての代替エネルギー計画 AEDP(Alternative Energy Development Plan)があり、2020年には全エネルギー消費の25%を代替エネルギーでまかなうことを計画している。また、自動車用燃料は2020年にはバイオエタノールを含む燃料(E10~E85)を全体の90%にする計画である。バイオエタノールは、日産9百万リッター、バイオジゼルは日産6百万リッターを計画している。タイの発電用原料の約7割が天然ガスであり、その多くを輸入に頼っている。タイは平地が多く、水力発電を実施できる場所がない。現在でも電力は不足気味で、山地が多いラオスから電気を輸入している。従って、自国で生産可能な代替燃料は非常に重要であり、バイオマス燃料への軽減税制や輸入化石燃料への関税等をフルに用いてバイオマス燃料生産を計画通り達成させたい。

### パネルディスカッション

2部に分かれたパネルディスカッションが実施された。第一部のパネルディスカッションは、パンヤピワット研究所の Paritud 氏が司会を行い、アジアにおける日タイのバイオマス共同研究の概要と課題について議論を行った。発言者と発言内容は以下の通りで

## 開催報告

ある。

- ・ JST シンガポール駐在事務所長小林治氏(SATREPS と e-ASIA JRP におけるバイオマス共同研究の概要)
- ・ 早稲田大学西嶋昭生氏(SATREPS におけるバイオジェーゼル研究の現状と課題)
- ・ 山口大学山田守氏(非食糧系バイオマス原料 Jatropha の生産性)
- ・ 佐村技術秀夫氏(産総研における技術移転の経験)
- ・ サイアム・セメント・グループ(SCG) Rommaneeya Tingdabadh 氏(SCG における特許戦略)
- ・ エネルギー環境大学院 Suneerat Fukuda 氏(タイにおけるバイオエネルギー技術の現状と課題)

第二部のパネルディスカッションは、TISTR の Sutiporn 氏が司会を行い、第一部の現状と課題を受けて、今後のバイオマス研究開発の方向性について議論した。発言者と発言内容は以下の通りである。

- ・ 日本工学アカデミー玖野峰也氏(バイオマス開発の今後の方向性)
- ・ 武田財団大戸範雄(バイオマス・オープン・リサーチ・センター(BORC)設立の提案)
- ・ 伊藤忠商事松見芳男氏(世界のオープン・イノベーション・リサーチ・センターの現状)
- ・ 早稲田大学西嶋昭生氏(日本のバイオマス政策と実用化に向けたロードマップ紹介)
- ・ パンヤビワット研究所 Paritud 氏(SATREPS 共同研究の今後の方向性)
- ・ NSTDA Thumrongrut Mungcharoen 氏(NSTDA におけるバイオマス開発の将来)
- ・ TISTR Yongvut 氏(TISTR におけるバイオマス開発の方向性)
- ・